

令和2年度 学校自己評価表

《学校教育目標》		《重点目標（中長期的目標）》	
幅広い教養と高い専門性を追求し、社会に開かれた学びをとおして、平和な未来に貢献できる心豊かな人間を育成する		【ひとつづくり(豊かな情操を育む人間形成)】 1 生命の尊厳を自覚し、真理と正義を愛する知識・教養・創造性豊かな人間の育成に努力する。 【ものづくり(付加価値の創造)】 2 独創(Originality)・想像(Imagination)・工夫(Device)・努力(Effort)の精神を尊重し、工業・商業両分野における「ものづくりの拠点校」としての役割を果たす。 【学校づくり(充実した学びの場の構築)】 3 安心・安全な学校をめざすとともに、環境教育や総合技術高校としての専門教育の推進等による特色ある教育システムを構築する。	
		領域	項目
ひ と づ く り	1	自分を大切にす心の育成 ・様々な教育活動を通して自己理解を深める取り組みを行い、自己肯定感や他人を思いやる気持ちを育てることに、命を大切にする教育を推進する。 ・メディアリテラシー、人権平等教育等に関する教育活動を推進する。 ・自主的な生徒会活動や積極的なクラブ活動への取り組みを行う中で、地域との繋がりがり他者を思いやる気持ちを持った豊かな人間性を育む。 ・「いじめ防止基本方針」を定め、「いじめ」を許さない学校づくりを推進し、いじめ被害の未然防止・早期発見・迅速な解決を目指す。	・4月からの約2ヶ月の休校期間ではHR担当が中心となってメール配信やGoogle Classroom等を活用した家庭連絡や様々な指導と学習支援を行った。 ・年度中の数回に及ぶ休校期間の影響で生活習慣が不安定になる状況が見られ、カウンセリング等の支援を行った。 ・学校再開後には授業開始時の見回りや登下校時の立ち番指導、身だしなみ指導等を例年通り実施し、校内の落ち着いた学習環境を維持することができた。今年度制服アンケートを実施したが、その結果を今後の指導に役立てていきたい。
	2	基本的な生活習慣の確立 ・日常生活において、職員全体による働きかけから挨拶・服装・髪型などに対する生徒自身の意識を向上させるとともに、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の充実を図る。 ・生徒会役員を中心とした朝のあいさつ運動や生活委員会の活動を通して、学校全体が心を通わせ、規則正しい生活が送られるように方向付ける。	・4月からの約2ヶ月の休校期間ではHR担当が中心となってメール配信やGoogle Classroom等を活用した家庭連絡や様々な指導と学習支援を行った。 ・年度中の数回に及ぶ休校期間の影響で生活習慣が不安定になる状況が見られ、カウンセリング等の支援を行った。 ・学校再開後には授業開始時の見回りや登下校時の立ち番指導、身だしなみ指導等を例年通り実施し、校内の落ち着いた学習環境を維持することができた。今年度制服アンケートを実施したが、その結果を今後の指導に役立てていきたい。
	3	得意分野の伸長 (卓越性の伸張) ・個々の意欲や特性ならびに能力を活かした活動ができるような環境や指導体制を整えるとともに、活動を広く発信することにより活動意欲を喚起する。 ・課題研究をはじめ様々な授業で積極的に外部との連携をはかり、21世紀型スキルの1つであるコミュニケーション力の伸長をはかる。 ・授業、クラブ活動、行事等をリンクさせ、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動して、問題を解決する能力を身につけさせる。 ・キャリアデザインに繋がる資格・検定・コンテストの情報提供を行うとともに、生徒の実態に合わせた講習会や補習授業を実施する。 ・終業式等の全校集会時に難易度の高い資格取得や検定合格を表彰し、資格検定の紹介を模造紙サイズに印刷して廊下や階段に掲示するなどの工夫を行い、資格取得に向けての意識づけを強化する。	・講習会や資格取得の補習授業は、該当学科を中心に必要に応じて実施することが出来た。第2種電気工事士は例年以上の合格率を達成することができた。 ・学期ごとの資格検定の合格者表彰は感染防止のため放送で実施した。また資格検定の紹介・案内を廊下、階段に掲示することにより、多くの生徒の目に触れ意識することが出来た。今後は更に合格者のコメントなどを載せるなど、この取り組みの継続・発展させていきたい。 ・課題研究では学科毎の発表会、ライトレースロボット大会、後輩への進路説明会等を通して、コミュニケーション力、協力、責任などの力を伸長させることができた。1月に予定していた全校課題研究発表会については飯伊地区の感染拡大の影響で中止となったが、各学科の成果をまとめた冊子を製作し、全校生徒職員及び学校評議員等の各方面に送付した。
も の づ く り	1	基礎学力の定着 (高校教育の共通性確保) ・学習習慣を身につけさせ、学ぶ意欲の向上を図る。 ・地域社会の課題に関心を持たせ、課題解決を通し学び続ける力の育成を図る。 ・道徳教育の計画に従い、共通の教材をSHRで活用し、一般的な知識や社会的出来事とおして自分の考えや仲間の意見を聞くなどの学習習慣の形成と仲間づくりに役立てる。 ・新型コロナウイルス感染症の休業期間において、家庭学習が効果的に行われるように生徒登校日や課題郵送等を計画的に実施し、更にICT機器の導入を含めた学習支援態勢を構築する。	・道徳の学習は、各HR計画に沿って実施することとしたが、今年度はコロナ禍の影響でHRの時間が十分に確保できなかった。確実な時間確保の方法を今後検討していきたい。 ・実習等の授業時間の減少の中で、作品、レポートを期日までに仕上げられるように配慮し指導を行った。 ・休校期間中の家庭学習については、郵送及び一斉配信メールとその添付ファイル機能の活用、googleの全生徒のアカウントを取得してclassroomによる配信等を実施した。これらの情報機器活用のための校内職員研修も複数回実施したが、今後もより実効的なICT活用方法を検討していきたい。
	2	専門力の伸張 ・学校の教育指導方針に沿い、職業人としての心の育成、資格・検定取得のための指導、地域人教育での社会人基礎力の向上に取組む。 ・「高度な専門性」を伸長させるためにコンソーシアムや地域の企業等連携し、講習会や講演会を実施する。 ・実験実習や課題研究をおとして、知識および技能、思考力、判断、表現力を向上させ、専門分野の実践的な力をつけるとともに、専門分野への探究心を育む。	・各学科で講習会を企画し、高度な技術・技能の習得に動めた。また地元の企業経営者を講師に招いて開催した講演会では技術者としての心構えを学ぶことができた。 ・各学科の授業では資格取得の促進や時代のニーズあわせた実験・実習内容を取り入れることにより専門力の向上を図った。 ・中学生対象の体験入学やオープンキャンパスは感染対策を講じながら例年通り実施することができた。各科の3年生が中心となって説明や指導を行い、専門科目を学ぶ魅力と職業教育の達成度の高さを中学生にアピールする機会となった。
	3	総合技術教育の推進 ・学校設定教科「総合技術」に新設される「地域活性プロジェクト」、「地域ビジネスと環境」、「協創教育基礎」(※「協創教育基礎」は普通科目内の学習プログラム)の実践や授業内容に関する地域企業等との連携等の地域の教育資産をカリキュラムに取り入れることにより、協創力や課題解決力の向上を図る。 ・他の総合技術高校との連携を深め情報を共有することにより、学校設定教科「総合技術」の深化、発展を図る。 ・全校課題研究発表会の充実を図り、外部への告知方法やPRについて工夫する。	・令和3年度開講科目である「協創教育基礎」、「地域ビジネスと環境」の模擬授業を実施した。今年度開講した3年選択科目「地域活性プロジェクト」ではグループ学習時に企業と連携した学習を取り入れ、そのままとして発表会を行うことができた。 ・進路希望にあわせて総合技術の科目を適切に選択できるよう学年と連携して指導を行った。 ・総合技術科目や課題研究等の特色ある学習活動の成果ををHPや新聞等で積極的に発信し、PRすることができた。
	4	進路指導の充実 ・3年間を見通した指導体制の下、面談等を計画的に行い、生徒・保護者の個々の進路希望を把握し、様々な進路行事を通じて進路に対する意識を高める。 ・進学希望者、就職希望者に対する補習、面接指導等を計画的に実施するとともに、生徒個々の進路希望の実現に向け家庭との連絡を密に取りながら適切な支援を行う。 ・「キャリアパスポート」のシート、または学習支援サービスなどを活用し、自分の在り方や職業人としての生き方を構想し続ける力を育む。 ・ポートフォリオを活用し、新しい入試制度への対応準備を進める。 ・休業期間中においても感染防止対策を十分に講じた上での登校進路面談やICT機器を活用しての進路指導方法を構築し、影響を最小限に抑える努力を係・学年の連携で進めていく。	・4、5月の休校中に企業の採用計画を調査し「進路だより」などで随時情報を伝えた。また休校中に個別の面談を実施し生徒の不安・相談を受けた。進路室でClassroomとメールを開発し、生徒の相談窓口を設けた。生徒への情報発信をさらに強化したい。 ・コロナの影響で若干求人は減ったが、各専門科をはじめ全職員による面接指導対策を行い、多くの生徒が第1希望の企業に内定することができた。 ・大学進学希望者は増加傾向。大学入試制度が変更になったが、生徒それぞれの強みを活かした入試パターンで合格した。指定校推薦でも面接以外に基礎学力試験や小論文が追加されたので早めの準備が必要である。 ・キャリアパスポートのひな形を印刷し、各HRや学年で必要に応じて利用する形とした。一方で、生徒の活動記録は、進路の推薦資料や指導要録の記録に必要なこともあり、統一した書式で効率的に記録できるものが必要と思われる。 ・2学年全員を対象に2日間のインターシップを実施し、働く意味や職場の厳しさを学ぶ機会となった。5月に予定していたキャリア学習の日は臨時休校のため中止となった。
学 校 づ く り	1	安心・安全な学校づくり ・危機管理意識を高め、事案発生の場合に迅速で適切な対応を組織的に行うためのシステムづくりをする。 ・様々な教育活動をおして「集団の中の自分、自分を取り巻く集団」という意識を持たせ、人との関わり合いを大切にする態度を育む。 ・職員間の情報共有を充実させ、不登校や障がいを持った生徒の日常生活を見守り、状況に応じてチームでの支援体制を整える。またSC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)をはじめとした専門機関と連携を図り、校内内外での支援体制を強化する。 ・定期的なSST(ソーシャルスキルトレーニング)を実施し、生徒のコミュニケーション能力や社会的自立心の育成に努めるとともに、命を大切にする教育を推進していく。 ・新型コロナウイルス感染症対策のための長期の休校や諸活動の自粛が生徒の心身に与える影響を最小限に抑えるための配慮について学校全体で対応にあたる。特に学校再開後にはきめ細かな健康観察により生徒の状況の把握に努め、専門機関との連携を含めた組織的な対応を行う。	・様々な問題を抱える生徒の実態把握に努め、家庭・地域・関係機関等との連携を強化して指導に当たっていく。中学校からの情報をもとに継続的にSWSの支援が受けられるよう連携した対応を行うことができた。 ・ネットトラブルやスマホ利用をめぐる新たな問題や課題にも迅速に対応できる指導体制を確立する。 ・普通教室に冷房装置が新設され、夏季期間の学習環境が飛躍的に改善された。実習室や特別教室等での熱中症対策を引き続き行っていく必要がある。 ・7月に発生した連続降雨によるJR運休の際には飯田市の支援を受けて代替バスによる送迎を計画した。(今回は実施前にJRが復旧)今後も様々な危機対応の際にこの関係機関と組織的に連携、対応できるよう校内体制を整備する必要がある。
	2	環境美化の推進 ・美化委員会と職員の連携を強化し、日常の清掃活動やごみの分別収集について立案・実施・指導し、校内の清掃美化の徹底を図る。 ・I SO委員会と連携し、地域の清掃活動の推進と発展を図る。 ・環境問題に対する意識向上を目指し、美化委員会およびI SO委員会の自主的な取り組みを職員全体で支援する。	・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年と比べて活動の制限を余儀なくされたが、感染予防対策を講じた上でできる範囲の諸活動を行った。 ・保健衛生係と連携し、「感染予防のためのゴミ捨てルール」に従いゴミの分別作業を行った結果、ゴミの減量化を図ることは出来たが、ルールに従った分別が徹底しない部分があった。
	3	組織的な学校運営 ・新型コロナウイルス感染症対策の休校措置対応を含む学校運営上の諸課題について係や学年が密接に連携しながら状況に応じた迅速な対応が取れる様な校内態勢を整える。 ・社会全体が今後長期にわたるこの新型コロナウイルスと共存せざるを得ないという認識に立ち、感染防止を図りながら「新しい生活様式」への移行に向けて校内の各分掌で準備を進めていく。 ・総合技術高校として発足してから7年が経過し、新たな取り組みの方向性に沿いながら運営上の諸課題の解決に取り組む。 ・地域と協働した高校改革推進事業において、学校全体の協力態勢を構築し、地域との連携可能なカリキュラムの開発を行う。 ・生徒個々の多様なニーズに対応するべく選択科目や学科横断科目などの多面的な学びを大切にしながら「地域協創スペシャリストの育成」を具現化するような教育課程を踏まえ、これらを踏襲したものとなるような新教育課程の編成を行う。 ・安全運転、わいせつ行為、体罰、個人情報について研修等を行い、非違行為の未然防止に努める。	・新型コロナウイルス感染症に関わる対応においては校内の各分掌が連携して様々な対応を迅速に行った。今後も校内の感染症防止対策を徹底するとともに、危機対応の体制に關しては更に見直しを行い強化していく必要がある。 ・ICT機器を活用した教育活動に関する校内研修会を複数回実施した。情報機器、設備や通信環境も順次更新改善されつつあり、次年度からの本格運用に備えて準備を進めていきたい。 ・地域との協働による高等学校教育改革推進事業の実施にあたり、係と職員が協働し、カリキュラム開発・新設の地域活性プロジェクトの授業、協創教育基礎や地域ビジネスと環境の模擬授業を行うことができた。 ・新教育課程の編成に関しては、これまで2年連続で実施してきた教育課程を踏襲するものとして編成し、新たなエッセンスとして学校設定科目を盛り込むこともできた。ただ、3年度を選択科目に関しては確定できていないため、次年度にその編成を行う。